

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570909416		
法人名	有限会社くおん		
事業所名	グループホームくおん A棟		
所在地	秋田県鹿角市八幡平字堰の下108番地		
自己評価作成日	令和3年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春夏秋冬 季節を目で肌で感じ取れる自然豊かな環境にあります。日々ゆったりと一日が過ぎるような雰囲気の中で安心して過ごすべく努めております。
・冬が長いので陽が出る日は出来るだけで、日光浴、外気浴を行っています。
（目の前の田んぼの様子や作業内容を見て、目で季節を感じる事が出来る。また、外気に触れることで肌でも季節を感じる事が出来る。自然を目にすること で、昔話をしたり会話の糸口になったりしている。）
・入居者さんの重度化が進んでいる状況で、入居者さんとそのご家族さんの安心に繋がるように訪問歯科を行って頂き外部からのお力添えを頂いている。
・今年度は、昨年の課題でもありましたコロナ禍の中での外部研修について、ネット環境を活用しオンライン研修を受講しカバーできる様になってきた。併せて内部研修を毎月計画に沿って行い、職員の資質向上に努めております。資格取得の為、また、介護福祉士、初任者研修を会社経費で受講して頂いております。
・今年度、介護報酬改定が行われ、災害時の対応力強化の構築がうたわれ、昨年度より外部電源工事を準備して参りました。11月には完成予定であり、有事の際は、入居者さんのみならず地域の方々へ高齢者第2指定避難所として開放出来るかと考えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周囲は山並が連なり、田んぼが広がっている。広大な自然の中で季節を感じながら過ごすことができる。ホーム内は明るく、利用者、職員の笑い声、歌声で溢れていた。一人ひとりの思いを工夫し汲み取り、大切に、その人らしい暮らしを支えている。この外部評価の自己評価を全職員が年2回行っている。サービスの質の向上に向けて共通認識を図り、職員の声に耳を傾け、活かしている。それが職員の意欲や質の向上、定着につながっている。外部電源工事により地域の避難場所と成り得ることは地域貢献にもつながる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆとり いたわり 思いやり」を忘れず入居者さんができるだけ満足していただける様に努力している。職員間で話し合い方針、目標に向けて頑張っている。職員同士のコミュニケーションもとても大切にしている。	4月にスタッフ会議の中で内部研修を実施し、職員全員が理念を理解し、共有している。利用者の重度化に伴い、現状に即しているか検討したこともあったが、事業所の根幹とし継続することとなった。理念を掘り下げ、細分化したテーマを毎月設定し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、以前の様な密な交流が出来ていない。日常的な付き合いではないが、地域の商店から移動販売の商品を販売してもらったり旬の野菜を頂いたり、地域の理髪店から感染予防の徹底を協力してもらいホームでの散髪を行ってもらっている。	外気浴や散歩の際に、挨拶を交わすなど、地域の一員としての位置付けにある。利用者が戸外に出たときなど、地域の方が知らせてくれたこともあった。移動販売や野菜の差し入れ、床屋、また園児の来訪は控えているものの園児の壁絵や鑑賞用のかぼちゃの作品などがホーム内に飾られていた。また、現在外部電源工事を行っており、有事の際には地域の避難場所としての役割を担う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献で出来ていないが、オレンジリング研修(認知症サポーター養成講座)の受け入れやボランティアさんから来てもらったり交流する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大につき、市及び委員のメンバーへ次第の発送をもって書面での開催とさせて頂いている。	地域の会長、民生委員、市役所、家族代表に利用状況や行事、職員の研修実施内容、近況報告や対応について細かに報告している。	コロナ禍で文書による情報提供・報告となっている。質問など受け付ける文言を記載しているが質問や意見などない状況である。外部の人々の意見は貴重なものである。積極的に意見を取り込むことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ワクチン接種や加算など疑問点を都度相談し情報を交換している。 ケアマネ連絡会議を2ヵ月1度開催し情報交換をしている。 (オンラインで)	直接出向き、法改正、加算など相談事項に実直に対応してもらっている。運営推進会議録を送付し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えている。ケアマネ連絡会議には、市の職員も加わり、困難事例からのケアプランへの反映など検討、アドバイスをもらっている。また、オレンジリングの施設見学の受け入れを行っている。市の職員の同行もあり相互的な位置づけにある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社から資料を職員個々に配布したり、関連資料を休憩室に設置してもらっている。毎月の社内研修でも話し合い取り組んでいる。	研修を実施し、身体拘束の内容や弊害を認識している。身体拘束の適正化に向けた対策会議を3ヶ月に1回実施し、職員全員が共有している。会議や日常のケアの実践の中で振り返り、利用者本人の心理的なことなども話し合い、身体拘束をしないケアの実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞、テレビ等の報道記事がでると、申し送りや申し送り後の各棟ミーティングの際に話題に出し注意喚起しながら防止の徹底をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	あまり専門的に学ぶ機会がなく昨年から社内研修実施予定に反映してもらった。これから多くなると思う為、只今いただいた資料で勉強中です。 現在1名の方が後見人制度の利用を申請中です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、ご家族さんや親類の方から必ず施設を見学し雰囲気を確認してもらい納得して頂いてからの契約となっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱の設置や毎月のサービス提供表にご家族さんからの意見や要望を記載する欄があり些細な事でも意見を頂戴する機会を設けている。コロナ禍になる前は、来訪時に意見を頂戴していた。また、運営推進会議委員に家族代表者2名から意見を頂戴していました。	ケアプランからその時点での必要なケアを毎月の介護計画に落とし込み、毎月家族に送付している。家族の意見を書く欄があり返送してもらっている。直接聴き取ることが難しい現状で、聴き取るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	お互いに意見を出しやすい関係づくりをしている。センサーマットの購入、車輛の入れ替えをしてもらった。また、希望休、有給の取得に対応してくれている。	月1回のカンファレンスや申し送り、日々のケアの中で現場の職員の意見を聞き、ケアに反映している。パワースーツや冷凍食品の導入など大事な決定について納得するまで一緒に話し合いをしている。運営に関する職員の声に耳を傾けることで、職員の自覚や意欲の向上、質の確保につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に日程、金銭部分のバックアップをしてくれている。資格取得時には昇給する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自らの研修などに協力的である。地域内の研修はもちろん出来るだけの機会をつくる様に声掛けして頂いている。研修後は、研修で得た情報を参加出来なかった職員へも伝え共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今の状況では難しいが、今は多職種連携をすすめる会主催のオンライン研修を用いて交流を持てるようになってきた。 ※市内GHケアマネ連絡協議会で年間計画をつくり交流できる機会を設けていたが、今年度は中止となってしまった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を大切にしている。訴えられる方そうでない方もおり普段の会話や行動を重要と思っている。また、情報を職員間で共有し信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族さんの施設見学もそうだが、入居前にケアマネと職員で自宅へ何度かお邪魔させてもらい入居時には「顔見知り」の関係を構築する様にしている。自宅の方がご家族さんの不安など意見が出やすい様に思う。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時の情報を元に、本人の出来る事。得意とする事を本人の役割として職員と共に同じ時間を共有している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診はほぼ職員で対応しているが、年に2回は受診に同行してもらっている。昨年度から自由な施設内での面会が出来ておらずオンラインでの面会や写真の送付、予約制の面会など面会の機会を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には、馴染みの私物を持ち込んで頂いている。昨年に引き続き地域のイベントが中止となり人との交流は無いに等しいが、自宅やお寺など入居者さんに関連する場所へドライブへ出掛けるなどで支援している。	外出が制限されている中、工夫しながら自宅など馴染みの場所へのドライブを行っている。近所の方とおしゃべりを楽しむこともある。またリンゴ畑に行った際には品種など蘊蓄を話される入居者もいたとのこと。思い深い場所から表情や言葉を引き出し、暮らしの中で大切にしてきた人や事柄、思いの継続につなげている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さんが自然と自分から話が出る相手を持ち助け合っている。時には職員が仲立ちして関係づくりができる様にしている。更衣を手伝ったり車いすを押し散歩している姿もみられる。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した家族さんからも運営推進会議の委員を昨年まで勤めて頂いた。退去後もあった時など話を聞いたり衣料販売している方とところで衣類購入したり関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月初めのお茶の時間に希望や意向を聞いて紙に書き貼りだし実行する様に努めている。また、七夕の短冊、クリスマスの時に話を聞いて思いを聞く様にしている。	一人ひとりの思いの把握に努めている。聞き出す時間を作ったり、七夕の短冊など行事や日々のケアの中で思いを探り、それを毎月張り出したりしている。実現に向けて、歩行能力の向上など段階的にアプローチしている。また、日記は習慣的になっている。家族の電話番号が何回も記載されている等、それから一人一人の大切なものや思いを汲み取ることができた。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	同居家族がいない場合もあり分からない部分も多々あるが、そういう方こそ対話時間を増やし相手を知り職員間の情報の共有に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前にお世話になっているケアマネジャーからアセスメントを貰い、職員さんと共に得意とする作業を行ってもらいカンファレンスで検討し記録に残している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の介護計画を全員必ず確認し日常の変化があった場合、話し合い見直しをしている。 毎日の申し送りの中で情報を共有し残存機能、事故防止などを確認している。	毎月の介護経過や職員の意見などアセスメント、モニタリングを繰り返し、本人や家族の意見など反映した介護計画を作成している。『入居者の様子と注意事項』など職員全員の広義の視点で捉えるよう工夫し、入浴や夜勤体制などマンツーマンの場面でも入居者が不穏にならないよう統一したケアの提供を目指した具体的な介護計画となっている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった時は直ぐに話し合い見直しをして対応している。 チェック表や日誌から個々の変化を共有して、ケアプランの見直しに繋げている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店から協力してもらい移動販売をしてもらっている。(今は商品だけを届けてもらっている)入居者さんはゆっくりと生活し慣れた場所でゆっくりと選び、支払いの計算をすることが出来ている。 散髪も地域の理髪店から行ってもらっている。その際、感染防止の徹底や1週間前から体調管理表を記載してもらうなど福祉施設の事情を理解してもらい協力をしてもらっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居時のままお世話になっています。歯科に関しては、訪問歯科を利用させてもらい入居時にカルテを作成してもらい特変時は直ぐに対応してもらえる様にバックアップしています。薬局は配達をもらうなど薬について不明な時など説明してもらうなど密な関係を構築出来ている。	情報を収集し適切に受診できるよう努めている。かかりつけ医、本人や家族の希望する医療機関を受けられるよう支援している。歯科の訪問診療があり、入居時や必要時に受診できる。家族からの同意を得て薬局は1ヶ所とし配達してもらっている。待ち時間の短縮、薬の重複や相互作用などの確認、専門的な知見から相談やアドバイスを得ている。また、薬の保存方法など研修の講師として依頼する等協力関係にある。家族には都度報告し、受診結果の共有をしている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護婦、訪問看護利用していない為、受診の前に必ず主治医へ伝える事を職員で話し合い受診している。受診はご家族さんだけに頼まず職員も立ち会い日常の様子を主治医へ伝えている。受診後や診察後に看護婦さんから説明してもらう事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーが対応し地域連携室の看護師、担当看護師と情報交換している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当施設で出来る事を説明し契約している。また、受診の際に主治医から現在の状況を説明してもらい今後の事を協議している。	入居時に、『重度化対応医療連携体制指針』により、事業所が対応し得るケアについて丁寧に説明し同意を得ている。訪問医療など終末期支援の体制の構築が難しいが、かかりつけ医との連携で可能な限り対応している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各種マニュアルを配布しているが、職員により知識、手当てする力がバラバラの様に思う。 心肺蘇生法の社内研修を行ったが、役に立った場面がありました。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員個々へマニュアル、資料を配布している。 年に2回は訓練を行っているが、実際の場合出来るか不安です。 運営推進会議で状況を説明している。	備蓄や停電時の対応など有事に備えている。火災、台風、豪雨など、昼夜想定、移送の避難訓練を実施している。訓練により振り返り、車椅子を準備するなどの課題を確認し、いざというときに慌てず確実に避難誘導ができるよう備えている。コロナ禍で消防の立ち合いが得られなかったため、警察に依頼し外部からの視点でアドバイスを得ている。夜勤者のほか宿直者がいる。駆け付けに関しても体制を構築している。外部電源工事が終了後は、地域の避難場所としての役割も担う。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内研修から得た知識を活かしトイレ誘導時の声掛けのトーンだったり目線の高さに気を付けています。トイレ内での転倒防止対応には、可能な限りプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	研修を実施し、理解を深めている。アクシデントが起きたときに、安全の確保から「危ね」など不適切な言葉を発した時でも経過があったの言葉であることも含め、事後の説明をしっかりと行うことが大事であると伝えている。入居者の誇りを傷つけないよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	移動販売時など住み慣れた空間でゆっくりと自己決定でき時間を掛け支払の計算ができる環境で行っています。 普段から信頼関係を築く為、お茶のゆっくりとした時間を大切に何気ない会話から思いや希望を聞き出せるように努めています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居前までの生活スタイルを取り入れるように心がけているが、緊急事態が発生してしまった場合など、希望通りの支援が出来ているか疑問になる時があります。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、外出時など鏡の前に誘導している。普段よりファッション誌を提供したり各部屋にクシを設置している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意とする方から食器の片付けを職員と共に行っています。カロリー計算された冷凍食品を使用しております。また、行事食の献立となっており食事からも季節を感じる事が出来る。職員も食事中メニューの説明をし会話しながら摂って頂いております。お彼岸におやつにオハギをつくり昔話に盛り上がりました。	食中毒の予防、カロリーの管理などから冷凍食品を使用している。丑の日や正月のおせちなど行事食にも対応している。地域密着型サービスの暮らしの場面であることを認識し、冷凍食品のみならず入居者の個々の力を活かしながらの調理品も食卓には並ぶ。職員も一緒に同じテーブルを囲み、会話を交わしながら楽しく食事を楽しんでいた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はカロリー計算されたものを提供しておりますが、主治医からカロリー制限あったり薬との兼ね合いも十分に留意し支援している。水分も同様に主治医からアドバイス頂きトロミを付け提供したり季節で摂取量を調整したりゼリーを提供したりと工夫しております。(チェック表に記入)		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の助言、アドバイスを頂戴し対応している。夜間は入れ歯を預かり洗浄しているが、時折、嫌がる方もおりますが、歯科Drからのアドバイス等を説明し食事後1日3度口腔ケアしてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基にトイレ声掛けを行い、夜間オムツ使用している方でも日中は布パンツにし支援しております。入居者さん個々の状態にあわせ夜間でも失敗ないように居室にポータブルトイレを設置し時間で声掛けする方もおります。(センサーマットも活用している)	紙パンツなど使用していた入居者も、入所時は布パンツにし、トイレでの排泄を促している。一人ひとりの身体状況、認知症によるものか利尿剤の服用などによるものか困難要因をチェックし、個別の排泄支援を行っている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	少しでも薬に頼らない様に水分摂取量はもちろんラジオ体操 散歩床に座位になっての運動を日々行っています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、バイタル確認し行っています。重度化により職員2人に対応する方もありますが、職員の勤務時間の関係から希望通りに行えていないのが多いかと思う。しかし入浴中に職員との会話や好きな音楽を聴きながらの入浴で支援しています。	週2回以上は入浴できるよう支援している。排泄等で汚れた際も随時入浴できるよう回数などは定めていない。ヒートショックなど身体の負担を軽減、また羞恥心への配慮として同性介助を行っている。長屋に住まれていた入居者は共同風呂を利用されていたこともあり、仲の良い入居者と一緒に風呂に入るなど、これまでの生活習慣を考慮し楽しみながら入浴できる。重度化により困難な入居者も、医師などからアドバイスをもらい、バスタオルを使用し浴槽に浸かることができるよう工夫している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に運動を中心に活動してもらえるように心掛けている。日中の職員が多数いる時間帯に話を傾聴するなど入居者さんの不安要素を夜間に持ち込まない様にしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが受診記録や処方箋を確認し把握しているか疑問もあるが、処方内容が変更となった時など様子の変化に留意する事を申し合わせている。分からない部分は、かかりつけ薬局や主治医に相談し理解するようにしております。また、誤薬、飲み忘れがない様にチェック表を用いています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意とする家事を積極的に行ってもらっています。入居者さんは感謝されることで笑顔になったり気概を持ちメリハリある生活に結び付けています。また、天気の良い日は外に出て景色を見たり農作業を見て昔話をされたりしています。 毎月、個々から希望を出してもらいそれに添える様に努めております。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年からの日常的に外出が出来ていないが、馴染みある場所へドライブしたり受診後に自宅付近へ出掛けてみたり今出来る事を精一杯行っているつもりです。	感染症対策をしながらドライブなどで気分転換を図っている。天気が良ければ、外気浴など戸外に出ている。季節の変化を感じ、五感刺激の機会になっている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各週で地域の商店から移動販売を行ってもらっています。施設内での買い物となる為、住み慣れた空間で時間を気にせずゆっくりと嗜好品を選定し時間を掛け支払金額を計算出来る様にしております。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時には対応しておりますし、ご家族さんから電話があった場合受話器を手渡しお話をさせて頂いております。このご時世、オンライン面会や写真の送付など電話、手紙以外の手法を取り入れている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、共有スペースから中庭の植物が見え季節を目で見る工夫となっている。	天井が高く梁のあるホールや古い筆筒など懐かしさもあり落ち着いた空間である。光やにおいなど配慮している。また時の見当識に配慮し、月日がわかりやすいよう工夫している。一人ひとりが思い思いに過ごせるスペースがあり、安心できる場所がある。車椅子の入居者も1日車椅子で過ごすことのないよう、ソファや床に座ってもらっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に安心できる固定場所がある様に思います。自然と気の合う方同士と談話したりレクリエーションやおやつを食べたり思い思いに過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族さんが持って来られたプレゼントなどご家族さんとの「つながり」を飾ったり入居時には、使い慣れた私物や馴染みの者を持ち込んでもらい住み慣れた空間づくりを心掛けている。自室へ入った際には「ここ私の部屋だ」と認識されている。	馴染みの布団や衣類、位牌やぬいぐるみなど持ち込み、入居前と同じ環境に近付けるよう配慮している。家族の写真やひ孫の手紙、飾り物などから、その人らしさ、思いが感じられる。物盗られ妄想など認知症状や転倒などのリスクに配慮し、一人ひとりが安心して安全に過ごせる空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表記を入居者さんの目線の高さに合わせている。		